

## 62期卒 原 奈美(旧姓:土屋)さんが 令和7年度 全国優良畜産経営管理技術発表会で 最優秀賞・農林水産大臣賞を受賞されました

62期卒・山梨県支部の原 奈美(旧姓:土屋)さんが、[令和7年度全国優良畜産経営管理技術発表会](#)で「最優秀賞・農林水産大臣賞」を受賞されました。

発表会は令和7年11月に東京都千代田区の都市センターホテルで開催され、全国から選ばれた8事例の発表の後、最優秀賞4事例、優秀賞4事例が選賞され、各受賞者に対し表彰状の授与が行われました。

原さんは「アニマルウェルフェアへの取り組みと共に、安全・安心を追求した甲州牛生産の匠一八ヶ岳の大地で牛と歩む未来へ」の演題で発表を行い、栄えある最優秀賞を受賞されました。

学園の畜産コース卒業後、地元山梨の公的機関で実務経験を積んだ後、家族で牧場を経営し「甲州牛」の育成に組み、その成果が評価されました。

大変おめでとうございます。





表彰式後、家族で記念撮影



地元紙でも紹介されました



令和7年度全国優良畜産経営管理技術発表会  
 〈第65回農林水産祭参加行事〉

令和7年11月28日

主催 公益社団法人中央畜産会  
 後援 農林水産省  
 地方競馬全国協会

詳細は右画像を  
 クリック！ →  
 「ファーム原」の  
 経営状況について  
 紹介されています。

## アニマルウェルフェアへの取り組みと共に 安全・安心を追求した甲州牛生産の匠

—八ヶ岳の大地で牛と歩む未来へ—

原 廣一・奈美（肉用牛一貫経営・山梨県北杜市）

### 地域の概況

原氏の農場がある北杜市は県北西部に位置し、八ヶ岳や南アルプスの豊かな自然に囲まれた地域である。標高が高く、清涼な気候と長い日照時間を生かした農業が盛んで、特に

水稲栽培が中心となっている。

畜産業では、乳用牛と肉用牛の飼育および鶏卵やブロイラーの生産も行われ、農業産出額に占める畜産の割合は約16.1%となっている。畜産は耕種農業と密接に連携し、粗飼料の生産や堆肥の活用を通じて循環型農業の一翼を担っている。



（写真1）家族写真

### 経営・活動の推移

#### 【夫妻そろって「和牛肥育の匠」】

和牛肥育に40年間取り組んできた先代が令和元年に急逝し、廣一氏が経営を引き継いで今年で7年目を迎える。廣一氏は山梨県立農業大学校（現山梨県立農林大学校）で畜産を4年間学び、山梨県酪農試験場（現山梨県畜産酪農技術センター長坂支所）に4年間勤務。その後（公財）山梨県子牛育成協会に20年間勤めた。

（表1）経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和59年	肉用牛一貫 飼作（214a）	繁殖牛5頭 肥育牛15頭	1169a	廣一氏のご両親が32歳で武島 廣一氏の父は農協勤務との兼業
平成27年	肉用牛一貫 飼作（214a）	繁殖牛25頭 肥育牛50頭	467.6a	結婚と同時に奈美氏が経営に参画
平成29年	肉用牛一貫 飼作（214a）	繁殖牛25頭 肥育牛50頭	467.6a	畜産クラスター事業で繁殖牛舎を増設
令和元年	肉用牛一貫 飼作（214a）	繁殖牛30頭 肥育牛50頭	467.6a	廣一氏が経営を継承
令和7年	肉用牛一貫 飼作（214a）	繁殖牛42頭 肥育牛98頭	467.6a	自己資金の中で規模拡大

情報提供：  
 広瀬様（元学園職員）